

「親子税金探険隊」

作文の部～優秀作品集～

最優秀賞

「ぼくと税金とおこづかい」

小学5年 岡本 空

ぼくにとって最大の敵は、消費税。

買い物するたびに、余分なお金が取られる上に、小銭が増える。お財布はパンパンになって重くなる。しかも確実に、ぼくの少ないおこづかいは減っている。最悪としか言いようがなかった。でも、今回参加した税金探険隊でその考え方が変わった。

警察署、消防署、海上保安部、どこもぼくたちが納めている税金で成り立っている。

警察官は、自分の身の危険をかえりみず、ぼくたちの安全のために努力してくれている。

海上保安部の人たちも、あの広い海を守っている。最近では、伊東のサメ事件。あの時も、上空から見守ってくれたと教えてもらった。

ぼくたちが納めた税金は、みんなの安全を守る警察、消防、道路の整備といった「みんなのために役に立つ活動」や、教育、福祉など、「助け合いのための活動」に使われていることがわかった。だからと言って、ぼくの最大の敵とは、すぐに仲良くなれそうにはないが、少しは分かり合えた様な気がする。

そして、ぼくのためにも、みんなのためにも、おこづかいを上げてもらえるように、お母さんと話し合おうと思う。

優秀賞

「みんなの税金」

小学4年 金刺大樹

知らないうちに、参加申込みをされていました。お母さんがただでご飯を食べたいからだと思います。ぼくはおまけみたいなものでした。警察署、消防署も行ったことあるし、つまらなそうだと思いながらバスに乗り込みました。

今回参加して分かったことは、税金の種類が48もあることです。自分が払っている消費税くらいしか知らないのも、もっと教えてほしかったです。国の借金が4割とはおどろきました。僕たちの将来はだいじょうぶなのかなと、心配になりました。

また、ビデオを見て感じたことは、税金がなくなると、道路をわたるのも、救急車を呼ぶのも有料になると言うことです。そんなふうになったら大変困ります。その上、両親は公務員なので、ぼくの小づかいや、食べる物、着る物にも不自由してしまうのかと思いました。税金の使い道は、国会議員が決めると言っていました。ぼくはまだ選挙できないけれど、とても大切な事なんだと思いました。投票には行ってほしいな。自分も決められた税金は、しっかり納められる大人になりたいです。



優秀賞

「大切な税金」

小学5年 芹澤彩夏

私は、税金が何のためにあるのか知りませんでした。でも、この税金探険隊に参加して税金は大切なんだなと感じました。

まず私が一番感じたのは、税金の使われ方です。警察署にあるパトカーや白バイ。消防署にあるはしご車や消防車、救急車を税金で買うそうです。はしご車は、ビルなどの火事の時に使います。はしごは30mも伸びるそうです。はしご車は、1億円以上すると聞いて私はおどろきました。それに、救急車は、ふつうの車をかいぞうして作るので、300万円と高くなります。なので、私は、税金は、みんなのために役立つ活動や、社会での助け合いのための活動に使われていることを知りました。

次に私は、税金がないと大変なことが起こることを知りました。私は、税金探険隊をやる前は、おかしとかを買うと、消費税でお金を多く払わなければならないので、無いほうがいいと思っていました。でも、「税金」がなければ日本がガラッと変わってしまうことに気がつきました。税金がなくなると、学校に月7万円払わなくなくなります。今まで税金を使って動いていた信号機も動かなくなり、交通事故も増えます。それに、火事とかが起こった場合、消防の人たちが来ます。火など消してもらうために来ます。税金があるとその税金で消防の人たちにお金を払います。でも、税金がないとその火事を起こした家の人がお金を払うことになります。

このことが分かって私は、税金って、すっごく、すっごく、みんなに役立っていて、すっごく、すっごく、大切なんだな、と改めて思いました。

私は、これから税金のことが知りたくなりました。将来、人の役に立つ仕事をしたいくなりました。